# 宇陀市内遺跡発掘調査概要報告書　2006年度

宇陀市文化財調査概要　2

2008

宇陀市教育委員会

# 宇陀市内遺跡発掘調査概要報告書　　2006年度

宇陀市文化財調査概要　2

2008

宇陀市教育委員会

# 例　　言

1　本書は、平成18（2006）年度に宇陀市教育委員会が国庫補助事業・県費補助事業として実施した「宇陀市内遺跡」の発掘調査概要報告書（宇陀市文化財調査概要　2）である。

2　発掘調査（現地作業及び整理作業）は、平成18（2006）年4月13日に着手し、平成19（2007）年3月31日に終了した。なお、本書の刊行は、平成19（2007）年度事業として実施したものである。

3　現地調査は、奈良県教育委員会及び奈良県立橿原考古学研究所の指導のもと、宇陀市教育委員会社会教育課（現　宇陀市教育委員会生涯学習課）主任　柳澤一宏が担当した。

4　調査組織及び関係者は、「Ⅰ　埋蔵文化財発掘調査の概要」に掲載している。

5　測量図及び遺構図の方位は、国土座標第Ⅵ系を基準とする座標北を用いているが、一部には磁北（M．N）も使用している。なお、平成14年4月1日施行の測量法改正により、測量の基準が日本測地系から世界測地系になっているが、本書では、これまでの遺跡測量成果等の都合上、日本測地系によっている。

7　土層の色調は、『新版標準土色帖』2000年版（農林水産省農林水産技術会議事務局監修　（財）日本色彩研究所色票監修）を参考にしている。

8　各遺跡の調査記録、出土遺物等は、宇陀市教育委員会において保管している。

9　本書の執筆・編集は柳澤が行った。

# 目　　次

Ⅰ　埋蔵文化財発掘調査の概要 …… 1
1　埋蔵文化財発掘調査等の概要
2　調査組織等
Ⅱ　位置と環境 …… 4
1　地理的環境
2　歴史的環境
Ⅲ　中西遺跡第１次発掘調査概要 …… 7
1　調査の契機と経過
2　位置と環境
3　遺跡の調査
4　まとめ
5　抄　録
Ⅳ　下城・馬場遺跡第11次発掘調査概要 …… 11
1　調査の契機と経過
2　位置と環境
3　遺跡の調査
4　まとめ
5　抄　録
Ⅴ　澤城跡第３次発掘調査概要 …… 16
1　調査の契機と経過
2　位置と環境
3　遺跡の調査
4　まとめ
5　抄　録

図　　版
報　告　書　抄　録

# Ⅰ　埋蔵文化財発掘調査の概要

## 1　埋蔵文化財発掘調査等の概要

宇陀市（旧大宇陀町・旧榛原町・旧菟田野町・旧室生村）内では、1960年代以降、土木工事等の開発行為に伴い、生活環境をはじめ、地理的環境・歴史的環境も大きく変化してきている。土木工事等の開発行為の増加とともに埋蔵文化財の発掘調査も市内各所で行われ、周辺の山野とともに大きく景観を変え、その姿を消している。

このような状況のもと、榛原町教育委員会（当時）と大宇陀町教育委員会（当時）では、町内遺跡の詳細分布調査を実施し、「遺跡分布地図」の整備をはかってきたところである。2006年１月に大宇陀町・榛原町・菟田野町・室生村が合併して「宇陀市」が誕生し、従来の業務等を引き続いて行っているが、遺跡分布調査が不十分な地域もあることから、基礎資料の再整備が必要となってきている。今後も市内各所で開発行為が計画・実施されており、埋蔵文化財の取り扱い等については、「遺跡分布地図」をもとに事業者等とその都度、協議を重ねているところである。

2006（平成18）年度に宇陀市教育委員会が取り扱った埋蔵文化財発掘届・通知、発掘調査等の件数は表１のとおりである。また、2006（平成18）年度に実施した発掘調査・工事立会は表２・図１のとおりである。本書には、国庫補助事業・県費補助事業として実施した中西遺跡（１次調査）、下城・馬場遺跡（11次調査）、澤城跡（３次調査）の発掘調査概要を収録している。なお、下城・馬場遺跡と澤城跡については、発掘調査中のため、調査成果が整理途上にあり、本書にはその一部を登載しているにすぎない。

**表１　2006（平成18）年度発掘届・発掘調査件数等一覧表**

| 遺跡有無確認踏査願 | 埋蔵文化財発掘届（民間） | 埋蔵文化財発掘通知（公共） | 埋蔵文化財発掘届・通知合計 | 発掘調査（市担当） | 工事立会（市担当） | 調査件数合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 0 | 4 | 2 | 6 | 4 | 4 | 8 |

| 種別＼摘要 | 遺跡名 | 所在地 | 調査原因 | 事業主体 | 工事面積（㎡） | 措置等 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 埋蔵文化財発掘届（民間） | 大蔵寺 | 大字陀区栗野906番地 | 防災設備改修工事 | 大蔵寺 | 3,960 | 2006年　宇陀市工事立会 |
| | 室生寺 | 室生区室生78番地外 | 防災設備改修工事 | 室生寺 | 60 | 2006年　宇陀市発掘調査 |
| | サンジョーボ遺跡（隣接地） | 菟田野区古市場450-6,470 | 社会福祉施設建設工事 | （有）クローバー | 1,703 | 2006年　宇陀市工事立会 |
| | 宇陀松山城下町 | 大字陀区小出口2287-3 | 個人住宅建設工事 | 裏南喬司 | 133 | 2006年　宇陀市工事立会 |
| 埋蔵文化財発掘届（公共） | 大野古墓（隣接地） | 室生区大野 | 道路改良工事 | 奈良県宇陀土木事務所 | 330 | 2006年　宇陀市工事立会 |
| | 宇陀松山城下町 | 大字陀区拾生1177番地 | 案内看板設置工事 | 宇陀市 | 16 | 2007年　宇陀市工事立会 |

# 2006（平成18）年度発掘調査等一覧表

| 番号 | 調査種別 | 奈良県遺跡地図番号 | 遺跡名 | 調査地 | 現地調査期間 | 調査機関（担当者） | 調査原因（原因者） | 工事面積（㎡） | 調査面積（㎡） | 調査概要 | | 遺跡概要 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | | | | | | 遺構 | 遺物 | | |
| 1 | 発掘調査 | 15－B－7 | 中西遺跡（1次調査） | 榛原区下井足1375-1<br>1375-2 | 2006/4/24<br>2006/5/19 | 宇陀市教育委員会（柳澤一宏） | 個人の住宅建設工事（藤村重賢） | 1,153.56 | 6 | なし | なし | 弥生時代・中世の遺物散布地 | 国庫補助事業 |
| 2 | 発掘調査 | 15－D－90 | 下城・馬場遺跡（11次調査） | 榛原町沢1295 | 2006/7/10～<br>2007/3/30 | 宇陀市教育委員会（柳澤一宏） | 個人の農地改良工事（砥出嘉信） | 1,117 | 62 | 整地土 | 須恵器、土師器、瓦器、瓦質土器、陶器、磁器、青磁、白磁、鉄刀子、鉄釘、鉄滓、銭貨、碁石他〈整理箱　40箱〉 | 縄文時代～古墳時代・中世の遺物散布地　中世の居館跡 | 次年度へ調査を継続<br>遺物は前年度分を含む<br>国庫補助事業 |
| 3 | 発掘調査 | 103－104 | 室生寺（奥の院）（4次調査） | 室生区室生 | 2006/11/9～<br>2006/12/25 | 宇陀市教育委員会（柳澤一宏） | 防災設備改修工事（室生寺） | 60 | 13 | 石段 | 土師器、銭貨（寛永通宝）〈整理袋　1袋〉 | 平安時代～現代の寺院 | 『室生寺奥の院発掘調査報告書』2007　所収<br>受託事業 |
| 4 | 発掘調査 | 15－D－79 | 澤城跡（3次調査） | 榛原区大貝302 | 2007/3/19～<br>2007/3/30 | 宇陀市教育委員会（柳澤一宏） | 範囲確認調査（宇陀市） | － | 22 | 礎石建物、ピット | 土師器、瓦質土器、陶器、磁器、青磁、鉄釘、鉄滓他〈整理箱　1箱〉 | 中世の城跡 | 次年度へ調査を継続<br>国庫補助事業 |
| 5 | 工事立会 | 18－B－152 | 大蔵寺 | 大字陀区栗野906 | 2006/5/18～<br>2006/5/31 | 宇陀市教育委員会（辻本宗久） | 防災設備改修工事（大蔵寺） | 3,960 | | 整地土 | なし | 平安時代～現代の寺院 | |
| 6 | 工事立会 | 103－18 | 大野古墓（隣接地） | 室生区大野 | 2006/7/28 | 宇陀市教育委員会（柳澤一宏） | 道路拡幅工事（奈良県） | 250 | | なし | なし | 奈良時代の火葬墓？ | |
| 7 | 工事立会 | 105－31 | サンジョーボ遺跡（隣接地） | 菟田野区古市場450-6<br>470 | 2006/12/6 | 宇陀市教育委員会（柳澤一宏） | 社会福祉施設建設工事（(有) クローバー） | 1703.11 | | なし | なし | 奈良時代の遺物散布地 | |
| 8 | 工事立会 | 103－18 | 大野古墓（隣接地） | 室生区大野 | 2007/1/10 | 宇陀市教育委員会（柳澤一宏） | 道路拡幅工事（奈良県） | 330 | | なし | なし | 奈良時代の火葬墓？ | |
| 9 | 整理作業 | | 平成17年度調査遺跡<br>下城・馬場遺跡<br>桧牧高倉遺跡<br>福地所在遺跡 | | 2006/9/5～<br>2007/1/30 | 宇陀市教育委員会（柳澤一宏） | 過年度の調査成果整理 | | | | | 発掘調査概要報告書の作成 | 国庫補助事業 |
| 10 | 整理作業 | 15－D－84 | 沢遺跡（10次調査） | | 2007/2/1～<br>2007/3/28 | 宇陀市教育委員会（柳澤一宏） | 過年度の調査成果整理 | | | | | 縄文土器の拓本作成、縄文土器の樹脂含浸 | 国庫補助事業 |
| 11 | 分布調査 | | 市内遺跡 | | 2007/1/19～<br>2007/3/27 | 宇陀市教育委員会（柳澤一宏） | 市内遺跡の分布調査 | | | | | 踏査用地図の作成<br>菟田野区・室生区内の踏査 | 国庫補助事業 |
| 12 | 保存処理 | 15－D－90 | 下城・馬場遺跡（3次調査） | | 2006/9/6～<br>2007/3/16 | 宇陀市教育委員会（柳澤一宏） | 出土遺物の保存処理 | | | | | 鉄製品92点の保存処理<br>保存処理業務は、㈱京都科学へ委託 | 国庫補助事業 |

図１　2006（平成18）年度　調査遺跡位置図

## 2 調 査 組 織 等

2006年度の現地調査及び2007年度の整理作業等の関係者は、次のとおりである（敬称略）。

2006年度（現地調査）

事業主体　宇陀市教育委員会
- 総　括　教　育　長　向出公三
- 庶　務　事務局長　中田　進
  - 参　　事　西岡博文（～９月30日）
  - 社会教育課
    - 課　　長　中井富一
    - 主　　幹　大西　茂（～９月30日）、山本富男（10月１日～）
    - 課長補佐　高山みどり、合田憲二
- 調　査　主　　任　柳澤一宏

2007年度（整理作業等）

事業主体　宇陀市教育委員会
- 総　括　教　育　長　向出公三
- 庶　務　事務局長　中田　進（～８月31日）、宇廻幸雄（９月１日～）
  - 参　　事　臺所直幸（10月１日～）
  - 生涯学習課　（社会教育課　～４月30日）
    - 課　　長　中井富一
    - 主　　幹　山本富男（～４月30日）
    - 課長補佐　高山みどり（～４月30日）、合田憲二
    - 主　　事　芳林正美（５月１日～）
- 調　査　課長補佐　柳澤一宏

**中西遺跡（１次調査）**
- 補助員　石井良憲、乾尊彦、筒井郁子、山﨑充代
- 指導・助言　奈良県教育委員会、奈良県立橿原考古学研究所
- 協　力　藤村重賢、松塚建設㈱、㈱ワールド

**下城・馬場遺跡（11次調査）**
- 補助員　石井良憲、乾尊彦、前田渉、松元章徳　川田晶一、打越真弓、日野原祥子、筒井郁子、松浪智美、山﨑充代、太田保美
- 指導・助言　奈良県教育委員会、奈良県立橿原考古学研究所
- 協　力　砥出嘉信、沢自治会、㈱パスコ、㈱ＩＤＡ、辻本宗久

**澤城跡（３次調査）**
- 補助員　松元章徳　川田晶一、打越真弓、日野原祥子、筒井郁子、松浪智美、山﨑充代、太田保美、増田恵美子、増田　啓
- 指導・助言　奈良県教育委員会、奈良県立橿原考古学研究所
- 協　力　山口　實、山口　武、大貝自治会、沢自治会、(有)ワーク、辻本宗久

# Ⅱ　位置と環境

## 1　地理的環境

奈良盆地東方の山間部に宇陀と呼ばれている地域が広がっており、現在の行政区画では、宇陀市（大宇陀区、榛原区、菟田野区、室生区）、曽爾村、御杖村からなる。この宇陀地方は、地理的な状況から西半と東半に大別でき、一般に前者が「口宇陀」、後者が「奥宇陀」と総称され、宇陀市の西半がこの口宇陀に含まれている。

口宇陀は標高300～400ｍの丘陵とこの間を縫って流れる中小河川が複雑に入り乱れ、これらが幾つもの小盆地や浅い谷地形を形成しており、口宇陀盆地とも称されている。これに対し、東部の奥宇陀は室生山地、高見山系などの峻しい山々が連なっており、奥宇陀山地とも呼称されている。

宇陀郡の四周はほとんどが山に囲まれており、東が三重県へと続く高見山地、西が大和盆地と宇陀とをわける音羽山、龍門岳などが連なる龍門山地となっている。南は吉野と接し、関戸峠を越えると紀伊半島を東西に走る中央構造帯を流れる吉野川流域へと至る。北は五条から桜井、榛原を経て伊賀へと続く近江・伊賀大断層と呼ばれる構造谷が認められる。この構造谷の北側は急傾斜の断層崖となっており、大和高原とをわける額井岳（通称大和富士）、香酔山、貝ケ平山、鳥見山などの山々が屏風状に形成され、宇陀の地を見下ろしている。

口宇陀を流れる主要河川は、西から順に宇陀川、芳野川、内牧川があり、これらは小盆地、谷部を蛇行しながら他の小支流をあわせ、宇陀市榛原区でさらに広い宇陀川となる。その後、宇陀川は室生川をあわせて北東へと流れ、三重県へ至って名張川となり、木津川、淀川を経て遠く大阪湾へとそそいでいる。口宇陀の西には龍門山地が横たわるため、これが奈良盆地との分水界となっており、大和川流域とは水系を異にしている。この宇陀川の本流は大宇陀区宮奥の谷に発し、黒木川、本郷川、中山川などの小支流をあわせて、榛原区へと至っている。一方、関戸峠を越えた大宇陀区大蔵、栗野などの地区は吉野川の支流である津風呂川の上流域となっている。芳野川は菟田野区岩端を源とし、宇太水分神社の南を流れ、榛原区下井足で宇陀川と合流する。芳野川流域と吉野川流域との分水界は、現在も市村界でもある佐倉峠の山系となっている。また、宇陀川と芳野川との間には吉野の山塊から延びてくる標高 320～430ｍの丘陵が横たわり、これらの尾根稜線を境として、現在の大宇陀区と榛原区、菟田野区との行政区画としている。

これらの地形に沿って古くから様々な交通路が発達し、宇陀地方は大和と伊賀、伊勢そして東国とを結ぶ重要な役割を果たしている。現在の主要交通路は、近江・伊賀大断層沿いの桜井市朝倉、初瀬、榛原区萩原、山辺三、室生区大野を通る国道165号線や近鉄大阪線となっており、かつては、伊勢街道（初瀬街道）、青越道などと呼ばれた道である。現在、榛原区の市街地が行政・交通の中心的な役割を担っているが、この様相は鉄道が開通した近代以降のことであり、近世以前にはいくつもの道が宇陀を縦横に走り、それぞれが重要な位置を占めていた。

奈良盆地と宇陀とを結ぶ道は、北から西峠、女寄峠、半阪の小峠、上宮奥の大峠を越えるルートが知られており、桜井市忍坂、粟原の谷部を経て小峠を越える半坂越が中心的な役割を果たした。西峠越が国道165号線、女寄峠越が国道166号線となって現在も主要道としての役割を担っている。

また、口宇陀を縦断するかのように南北にいくつもの主要道が走り、北へとると榛原を通る伊勢街道を横断し、香酔峠を経て奈良市都祁町などが位置する大和高原へと至る。南の関戸峠や佐倉峠を越えると、もうひとつの伊勢街道（高見越）へと通じ、関戸峠を越えた三茶屋から南は東熊野街道にもつながる。東への道は青越道のほかに、石割峠を越える伊勢本街道、現在は国道369号線となっている開路（石楠花）・栂坂峠を越えるルートなどがある。

口宇陀には縦横、東西南北の各方面に触手のように道がのび、「壬申の乱」の際、大海人皇子の一行が吉野から宇陀を経て、伊賀へと進んでいったことからも明らかなように、この地域は交通の要衝とし重要な位置を占めている。これらの古代からの道は、国道、県道、町道等に姿が変えているものの、今もその占める役割は変わらない。

## 2 歴 史 的 環 境

宇陀地方、なかでも口宇陀地域には縄文時代以降、各所で多くの人々が生活を行い、その痕跡が「遺跡」となって、今の我々に、様々なことを教えてくれる。また、宇陀地方は、『古事記』、『日本書紀』をはじめとする多くの文献にも度々登場し、今に伝える地名、伝承等も多い。

これまでに、宇陀地域では4点の有舌尖頭器が出土しており、うち、3点が榛原区内から出土している。これらは、縄文時代草創期に求めることができ、この頃が宇陀地域の歴史の初源であろう。

縄文時代の遺跡の多くは、先述の河川流域の河岸段丘上、尾根上、谷部等に認められる。これらの遺跡の多くは、採集遺物によっているため、その実態が必ずしも明らかとはいえない。また、発掘調査によって確認された場合でも、数点の遺物が出土しているのみで遺跡の全容が明らかになったものは少ない。このような状況のもと高井遺跡や坊ノ浦遺跡では、早期から後期にわたる集落跡であることが発掘調査によって明らかとなっている。

弥生時代前期から中期の遺跡は、沢遺跡、下城・馬場遺跡、大貝ヒジキ山遺跡、上井足北出遺跡をはじめとする数遺跡が知られているにすぎないが、後期の遺跡は比較的多く認められる。これらは、地理的制約のためか奈良盆地で見られるような大規模な集落ではないが、次代の古墳時代へと継続するものが多い。この時期の遺跡の特徴として、竪穴式住居跡等を設ける低丘陵上遺跡の出現をあげることができ、能峠北山遺跡、平尾東遺跡、五津・西久保山遺跡、五津・峰畑遺跡、大王山遺跡、福地城遺跡などでは、後期から古墳時代初頭に属する住居跡が確認されている。

弥生時代後期から古墳時代前期の墳墓である台状墓（区画墓）は、これまでに黒木西城跡、胎谷古墳、蓮華山遺跡、見田・大沢古墳群、野山遺跡群、大王山遺跡、下井足遺跡群、能峠遺跡群、平尾東古墳群、西久保山遺跡、キトラ遺跡などで確認されている。弥生時代後期の集落としては、高塚遺跡、能峠中島遺跡、上井足北出遺跡、古墳時代の集落としては、先の遺跡の他、戸石・辰巳前遺跡、高田垣内遺跡、谷遺跡、石榴垣内遺跡、坊ノ浦遺跡などを挙げることができ、谷部を流れる川跡や竪穴住居跡などが確認されている。

また、文献資料からではあるが、銅鐸の出土が確認さている。『続日本紀』元明天皇和銅六年（713）秋七月丁卯の条に「大倭国宇太郡波坂郷人大初位上村君東人得銅鐸於長岡野地而献之　高三尺　口径一尺　其制異常　音協律呂　勅所司蔵之」と記され、この出土地については、詳細は明らかでな

いが、榛原区八滝の長坂とも大宇陀区小和田字岡田ともいわれている。

古墳時代前期から中期の古墳は、鴨池古墳、北原西古墳、北原古墳、谷畑古墳、古市場古宮谷１号墳、シメン坂１号墳、高山１号墳、前山１号墳などが発掘調査によって明らかにされている。後期となると古墳数は著しく増加し、ある程度の粗密があるものの、口宇陀地域の尾根上には数基から十数基単位で分布している。５世紀中葉から後葉に出現してく古墳群は、後出古墳群、野山古墳群、大王山・篠楽古墳群などがある。その後、今までの木棺直葬墳にかわって横穴式石室墳が築造されるようになり、６世紀第２四半期の谷脇古墳を先駆けとして、丹切古墳群、能峠古墳群、大貝古墳群、西谷古墳群をはじめ、多くの古墳が発掘調査によって状況が明らかになっている。

横穴式石室にかわる新しい葬法として火葬墓が登場してくるが、最も代表的なものが、壬申の乱で活躍した将軍のひとりで渡来系氏族でもある文祢麻呂の墳墓である。現在、墳墓は史跡、墓誌などの出土品は国宝となっている。このほか、凝灰岩製外容器内から銅製骨蔵器が出土した拾生火葬墓、２枚の鉄板と木炭に包まれた須恵器が出土した岩尾火葬墓がある。

寺院では「女人高野」の別名がある室生寺が知られているところである。古代寺院跡では、安楽寺跡（駒帰廃寺）の全容が明らかとなっている。金堂跡と考えられる礎石建物遺構とその東側にも礎石建物跡や素掘溝などが検出され、奈良時代初頭に創建、平安時代中頃に焼失したことが明らかとなっている。この他、小附廃寺、小附大谷廃寺、サンジョーボ遺跡からも瓦が出土している。

古代末には、宇陀においても荘園の開発が急速に進み、坊ノ浦遺跡や高井遺跡では、掘立柱建物跡や素掘溝などを確認している。この頃から台頭してくる地武士団は、興福寺、春日社などの支配のもと各自が発展を続けた。この武士団は「宇陀三人衆」の秋山氏・澤氏・芳野氏に代表され、彼らは秋山城、澤城、芳野城をそれぞれの居城としていた。また、小規模な城館跡も各所に点在しており、城館の廃絶後、中世墓地と化したところもある。いわゆる中・近世墓地は、まとまったところでは、大王山遺跡、能峠遺跡群、八咫烏遺跡群、野山遺跡群などが発掘調査により明らかにされている。

宇陀松山城（秋山城）跡は、中世から近世初頭にかけての宇陀地方の中核的な城郭と城下のあり方を知る上で欠くことのできないもので、その眼下には城下町が広がる。松山伝統的建造物群保存地区と呼称するこの地区は、近世城下における商家町から在郷町として発展し、近世から昭和前期までに建てられた意匠的に優れた町屋をはじめ土蔵や寺社などの建築群、石垣や水路などが一体となって歴史的景観を今日によく伝えている。

参考文献

『宇陀・丹切古墳群』　奈良県教育委員会　1975

『大王山遺跡』　榛原町教育委員会　1977

『能峠遺跡群』Ⅰ　奈良県教育委員会　1986

『野山遺跡群』Ⅰ　奈良県教育委員会　1988

『高田垣内古墳群』　奈良県教育委員会　1991

『大和宇陀地域における古墳の研究』　宇陀古墳文化研究会　1993

『宇陀松山城（秋山城）跡』　大宇陀町教育委員会　2002

『大宇陀・松山―松山・神戸地区伝統的建造物群保存対策調査報告書―』　大宇陀町教育委員会　2001

# Ⅲ　中西遺跡第１次発掘調査概要

## １　調査の契機と経過

中西遺跡は、弥生時代の遺物散布地で、「奈良県遺跡地図番号15－Ｂ－７」として登載され、その範囲は南北約120ｍ、東西約180ｍとなっている。

この遺跡南端の住宅地内において、個人住宅の新築工事が計画され、2006年３月には埋蔵文化財発掘届が提出された。その後、関係機関等が遺跡の取扱い・発掘調査の実施方法等を協議した結果、宇陀市教育委員会において発掘調査を担当することとなり、現地調査を2006年４月24日、５月19日に実施した。

## ２　位　置　と　環　境

中西遺跡は、榛原の市街地の西端に位置し、標高約309ｍ～323ｍの尾根先端部分、南斜面に広がる。遺跡の南辺は、国道370号線が東西に走る（図２、図版１）。

遺跡の北側の尾根上には、井之谷遺跡群（古墳時代・中世）、東隣には丹切遺跡（縄文時代～中世）が位置する。また、南側の水田地帯、宇陀川・芳野川流域は、『万葉集』にも詠われた「猟路の池」と考えられているところである。

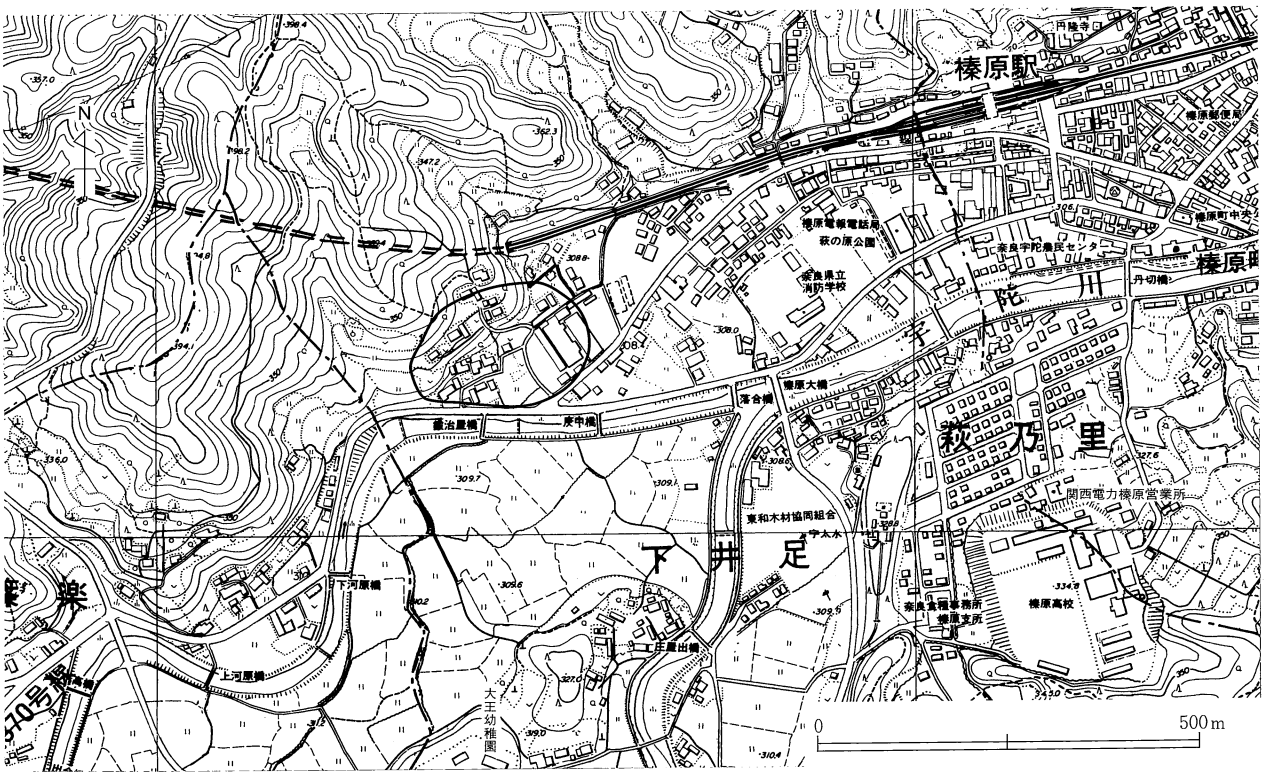



図２　中西遺跡位置図

## 3　遺跡の調査

(1)　調査区と基本層序

工事予定地（面積：83.67㎡）のうち、建物建設地の東辺部分にトレンチ（長さ約６ｍ、幅約１ｍ）を設定し、遺構・遺物の検出につとめた（図３・４、図版１）。

基本層序は、トレンチの西端では、第１層が褐色の整地土、第２層が暗褐色の整地土、第３層が灰黄褐色粘質土（ベース土）である（図５、写真１）。建物基礎との関係上、必要以上に掘り下げを行っていない。

(2)　検出遺構・出土遺物

第３層上面において、明確な遺構が認められなかったため、一部において、さらに掘削を行ったが、その下層においても明確な遺構は、認められなかった。

第１層の整地土において、明治期以降の陶器・磁器の破片が若干、出土しているが、これ以前の遺物は認められない。

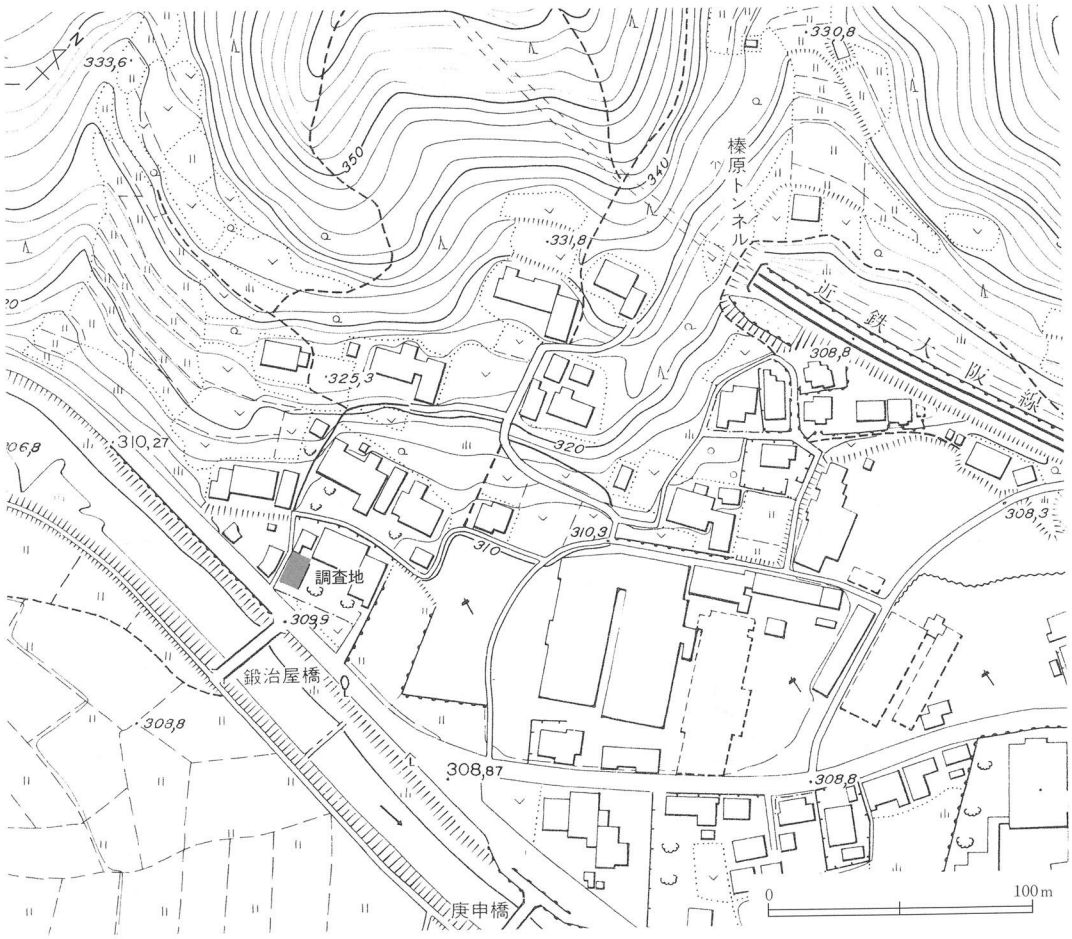



**図３　中西遺跡調査位置図(1)**

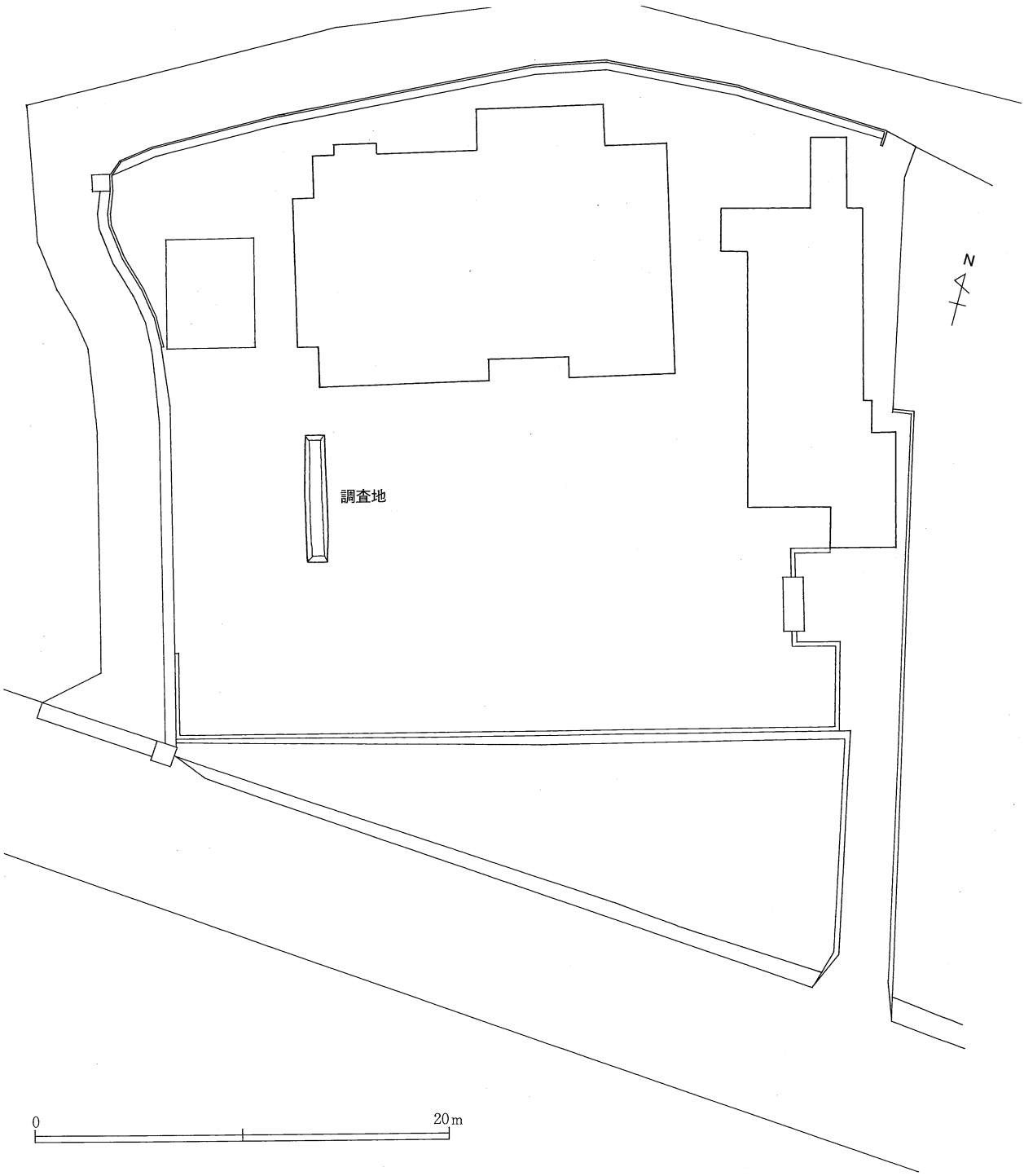
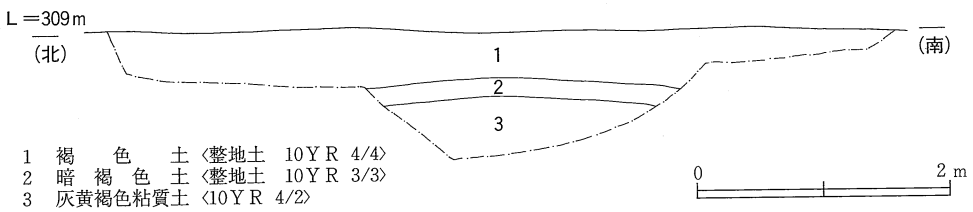



図４　中西遺跡調査位置図(2)




1　褐　　色　　土〈整地土　10ＹＲ 4/4〉
2　暗　褐　色　土〈整地土　10ＹＲ 3/3〉
3　灰黄褐色粘質土〈10ＹＲ 4/2〉

図５　中西遺跡土層断面図

## 4 ま と め

当初のトレンチで明確な遺構・遺物が認められなかったため、その範囲の拡張は行わなかった。また、工事の内容から必要以上の掘り下げは行っていないが、この住宅地内において過去に井戸の掘り下げを行った際、砂利層があったとのことから、調査地周辺は、宇陀川の氾濫原であったと考えられる。

このことから遺跡の中心は、調査地北側の尾根斜面の住宅地・畑地と推定されるが、その詳細は現段階では、明らかにできない。

## 5 抄 録

| | |
|---|---|
| 遺跡名 | 中西遺跡 〈奈良県遺跡地図番号15－Ｂ－７〉 |
| 調査地 | 奈良県宇陀市榛原区下井足1375-1、1375-2番地 |
| 遺跡立地 | 標高約309ｍ～323ｍの尾根先端部分 |
| 遺跡規模 | 南北約120ｍ、東西約180ｍ |
| 種別 | 弥生時の遺物散布地 |
| 調査主体 | 宇陀市教育委員会 |
| 調査原因 | 個人住宅建設工事（事業者：藤村重賢） |
| 現地調査期間 | 2006年（平成18） ４月24日、 ５月19日 |
| 調査面積 | ６㎡ |
| 検出遺構 | なし |
| 検出遺物 | なし |
| 資料等の保管 | 宇陀市教育委員会 |
| 調査後の措置 | 明確な遺構が認められないため、工事実施 |

**写真１ 土層断面**

# Ⅳ　下城・馬場遺跡第11次発掘調査概要

## 1　調査の契機と経過

下城・馬場遺跡は、澤城跡から南方へ派生する尾根筋とその間を流れる小支流によって形成された小規模な谷地形の先端部の一角を占めている（図６、図版２）。古くから澤城の下城といわれ、現在も小字名に「下城」や「馬場」などといった呼称が残っている。

1984年度には「沢集落センター」建設に伴う発掘調査（１次調査）を行い、縄文時代～弥生時代、中世（12世紀～13世紀）の遺構・遺物を検出している。その後、遺跡高所の平坦面において個人による土地改良工事が計画されたため、1993年度に２次調査、1994年度に３次調査、1997年度に４次調査を実施し、15世紀～16世紀の礎石建物等の遺構をはじめ、多くの遺物を検出し、中世の館跡の一端を明らかにできた。

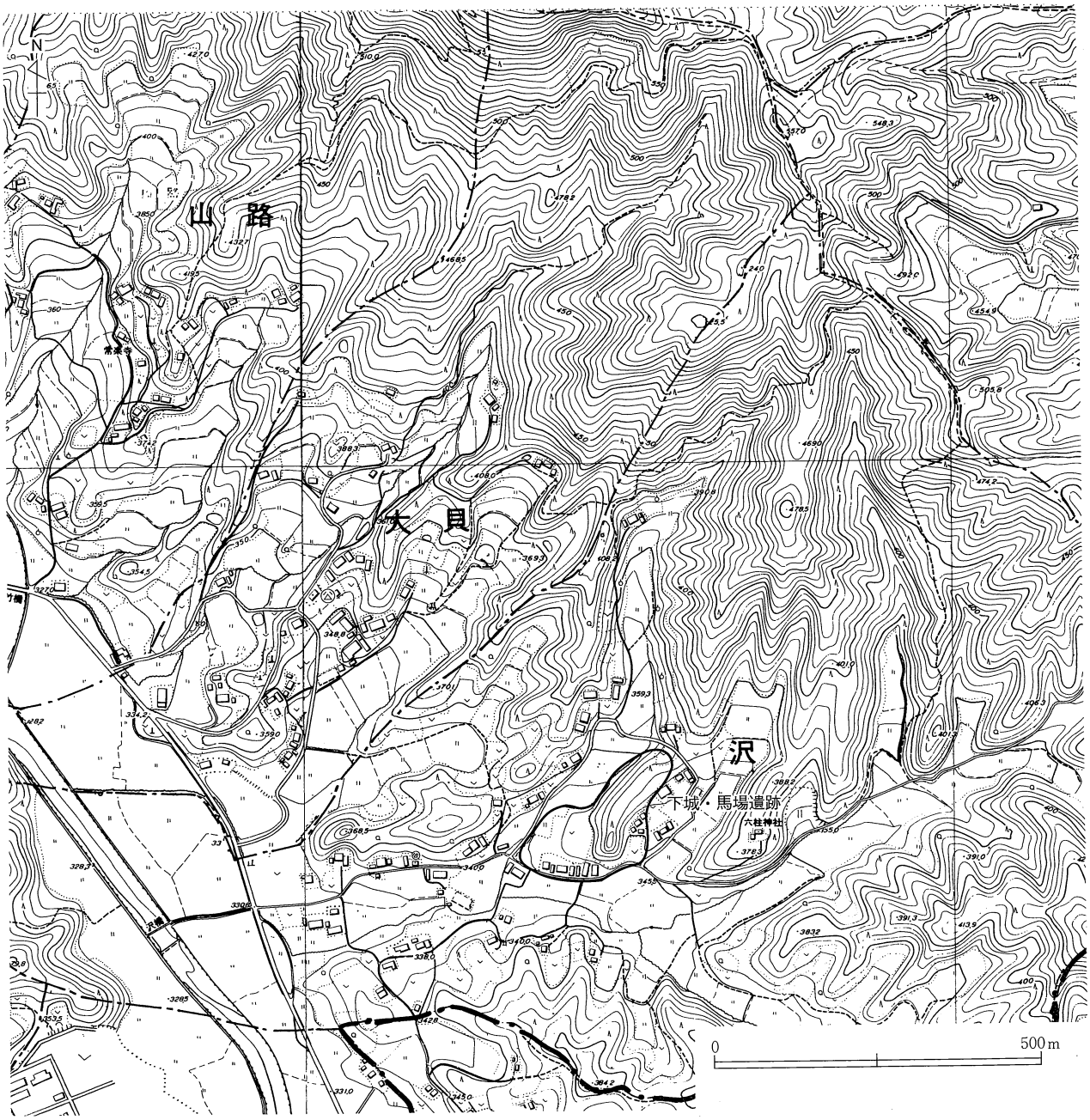



図６　下城・馬場遺跡位置図

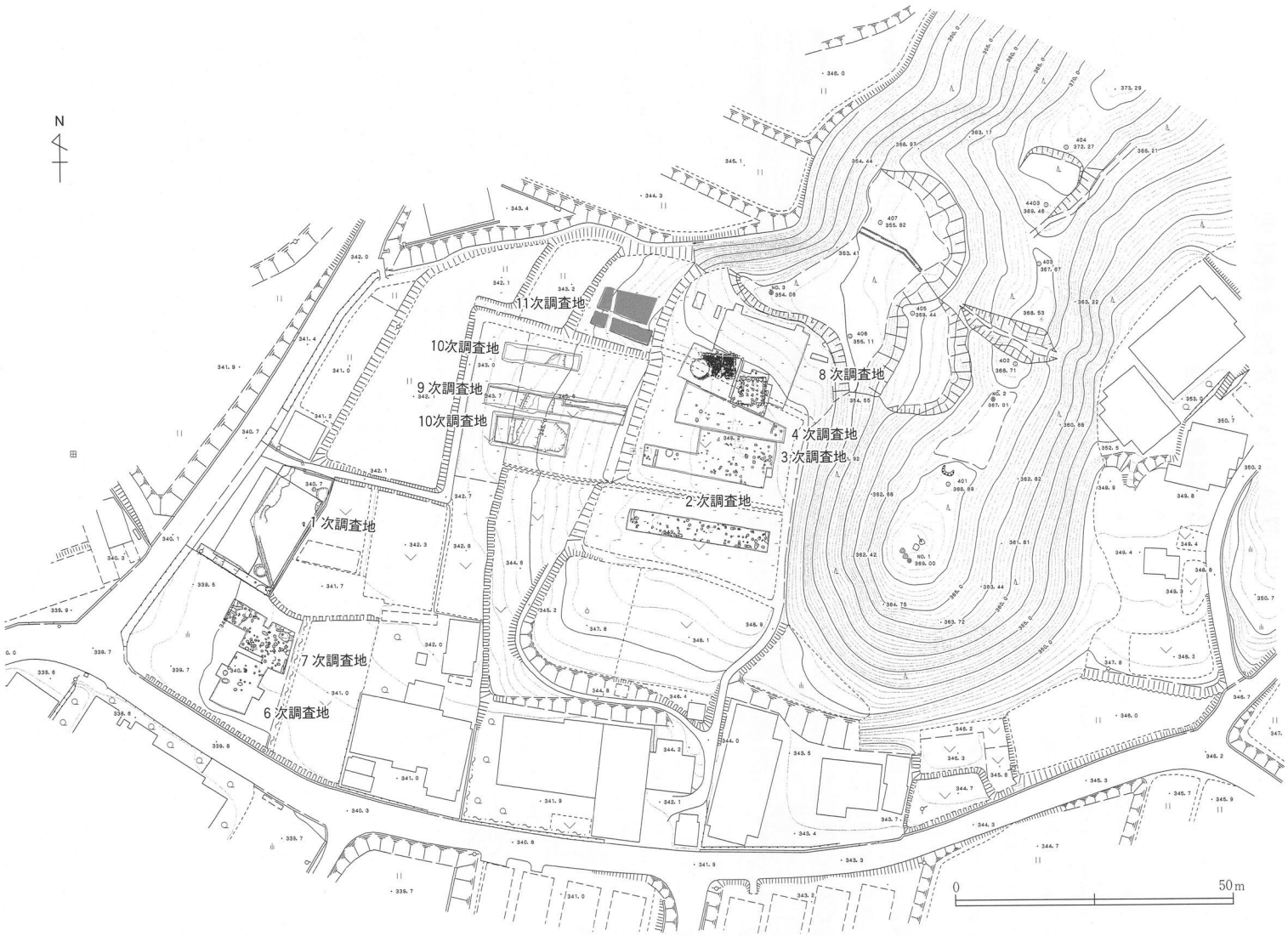



**図7　下城・馬場遺跡調査位置図**

これらの発掘調査によって、下城・馬場遺跡は、宇陀地域における有力中世武士団のひとりである「澤氏」の城館跡（居館跡）であることが明らかとなったことから、さらにその状況等を解明する範囲確認調査を計画し、1998年度に地形測量等（５次調査）、1999年度には、遺跡南西隅部分の遺構・遺物の状況を明らかにする６次調査を実施し、2000年度には、６次調査地の北隣において７次調査を継続し、あわせて東尾根の地形測量も行った。2001年度には、２～４次調査地北側の遺構の有無などを明らかにすることを目的とした確認調査（８次調査）を実施した。

2003年以降、個人による農地改良工事に伴う事前の発掘調査を実施（９次・10次調査）しており、本調査地で11次を数える（図７）。発掘調査（現地調査）は、2005年（平成17年）７月21日～2006年（平成18年）３月28日にかけて断続的に行ったが、多くの遺物が出土しているため、その調査を継続することとし、2006年（平成18年）７月10日～2007年（平成19年）３月30日の間、断続的に実施した。なお、まだ多量の遺物が出土しているため、次年度にその調査を継続することとした。

## 2　位置と環境

下城・馬場遺跡は、尾根稜線から西斜面、標高約339ｍ～370ｍの一角を占めており、芳野川が流れる西方への眺望が比較的良好で、遠く、宇陀地域の代表的な中世山城である秋山城跡（近世初頭には宇陀松山城）を望むことができる。また、北方には澤城跡や伊那佐山を仰ぎ見ることができる。下城・馬場遺跡の中心は尾根の西斜面に広がり、４段にわたる平坦面が形成されている。遺跡の現状は大半が畑地や水田、山林、周縁部は宅地となっている。

この遺跡の周辺は縄文時代～中世の沢遺跡、弥生時代～中世の延命寺遺跡、古墳時代前期の戸石・辰巳前遺跡や古墳時代前期～後期の野山古墳群などの遺跡が集中している地域でもある。

## 3　遺跡の調査

今回の発掘調査では、９次調査時に多くの遺物が出土した９－２トレンチの遺物の埋蔵状況を明らかにするため、この調査区を拡張して、11次調査地としている。

１層（耕作土）、２層（流土等）を除去すると、多量の遺物を含む整地土（３層）を検出した（図８）。整地土は、上方から土砂・遺物が交互に傾斜をもって堆積している状況が見える。整地土中の遺物は、少なくとも２～３回にわたって、上方からの投棄された状況がうかがえるが、今年度は、上面での遺物検出、掘り下げ、遺物取り上げなどを行った（図９、図版２・３）。遺物の検出・取り上げ作業等は、まだ途上であるが、瓦器椀は、12世紀中葉から13世紀後半の時期のものが大半を占める。土器を中心とする遺物の投棄時期については、今後の発掘調査の進展によって明らかにしていきたい。

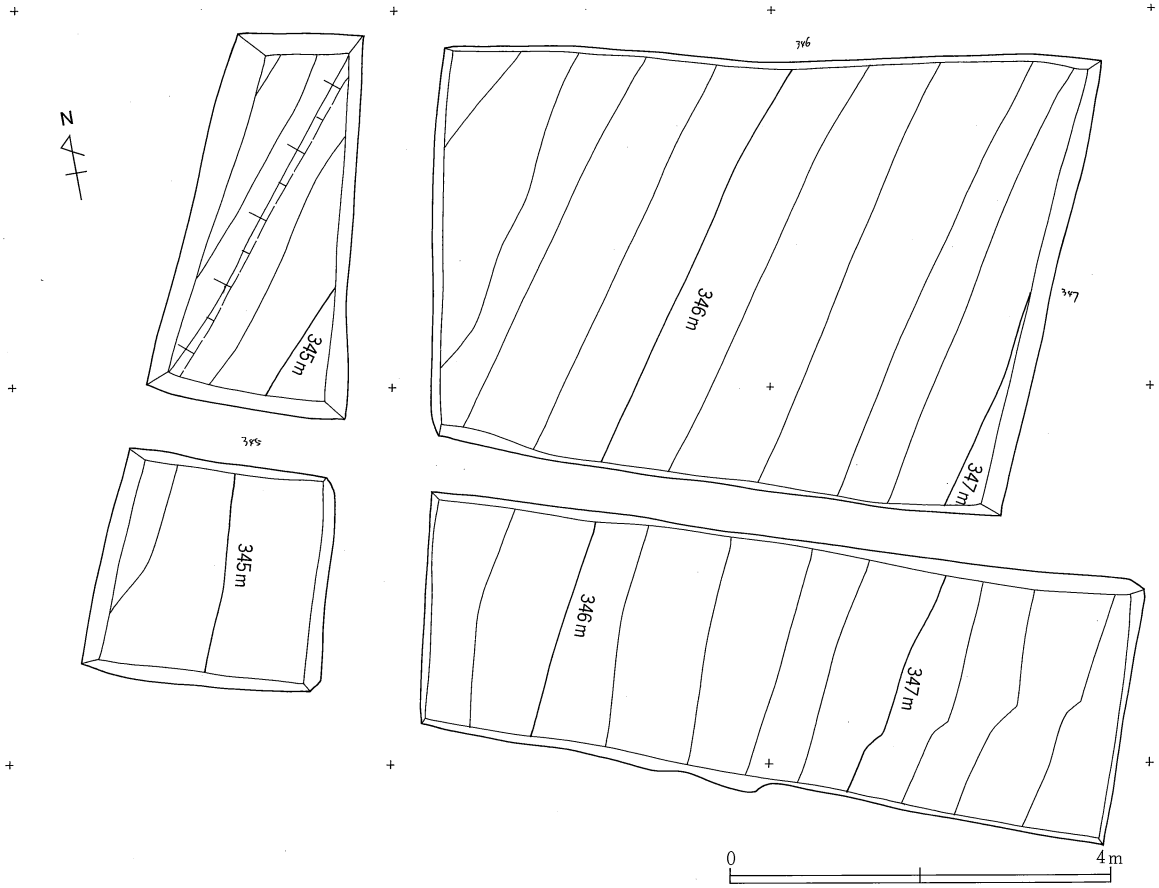



図 8　下城・馬場遺跡11次調査地測量図（第 3 層検出面）

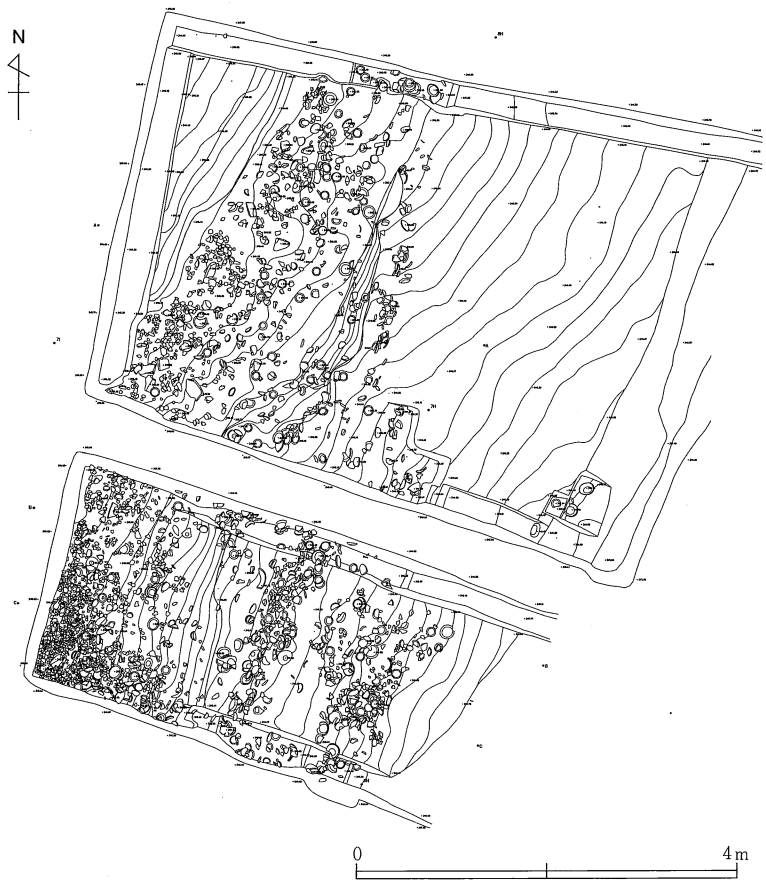



図 9　下城・馬場遺跡11次調査地測量図（第 3 層土器群出土状況）

## 4 ま と め

9・10次調査と同様、上段の居館焼失に伴う片付けによって、土砂、遺物などを西斜面へ投棄した状況がうかがえ、これが結果的に整地土となっており、地形の傾斜によった斜めの堆積状況を示している。整地作業終了後、館の西側に幅約５～６ｍ、深さ1.5ｍ以上の堀を穿っているが、この堀は、現在の土地形状に比較的一致し、南北方向に埋没しているものと推定される。

なお、堀の造営は14世紀中葉以降、堀の埋没（埋め立て）は16世紀後葉頃と現段階では考えている。これが澤氏の居館の終焉とも考えられる。

## 5 抄 録

| | |
|---|---|
| 遺跡名 | 下城（しもんじょ）・馬場（ばば）遺跡（奈良県遺跡地図番号　15－Ｄ－90） |
| 調査地 | 奈良県宇陀市榛原区沢1295番地（小字名：下城） |
| 遺跡立地 | 標高約339ｍ～370ｍの尾根稜線・斜面、谷部分 |
| 遺跡規模 | 南北約200ｍ、東西約200ｍ |
| 種別 | 縄文時代・弥生時代・古墳時代・中世の遺物散布地、中世の居館跡 |
| 調査主体 | 宇陀市教育委員会 |
| 調査担当者 | 宇陀市教育委員会　社会教育課　主任　柳澤一宏 |
| 調査原因 | 個人の農地造成工事（事業主体：砥出嘉信） |
| 現地調査期間 | 2006年（平成18年）７月10日～2007年（平成19年）３月30日 |
| 調査面積 | 62㎡ |
| 検出遺構 | 整地土 |
| 検出遺物 | 土師器、瓦器、瓦質土器、陶器、磁器、鉄刀子、鉄釘、鉄滓ほか<br>〈整理箱　20箱〉 |
| 資料等の保管 | 宇陀市教育委員会 |
| 調査後の措置 | 次年度へ発掘調査継続 |

**写真２　作業風景**

# Ⅴ　澤城跡第３次発掘調査概要

## １　調査の契機と経過

澤城跡は、中世の宇陀を代表する澤氏の居城といわれ、以前から、宇陀を代表する中世山城のひとつとして注目されてきた。近年は、澤城跡を含む山林の荒廃が進行しつつあり、澤城の保存と活用が望まれてきた。この城跡の保存と活用をはかる資料の作成等が課題となり、2001年度には、城跡の地形測量、崩壊箇所の緊急調査（１次調査）を実施したところである。

2004年度から遺構・遺物の状況等を明らかにする確認調査を実施することとなり、関係機関・関係者の協議によって諸条件が整った地区の現地調査を行い、2004年（平成16年）３月10日～2005年（平成17年）８月10日まで、断続的に２次調査を実施した。

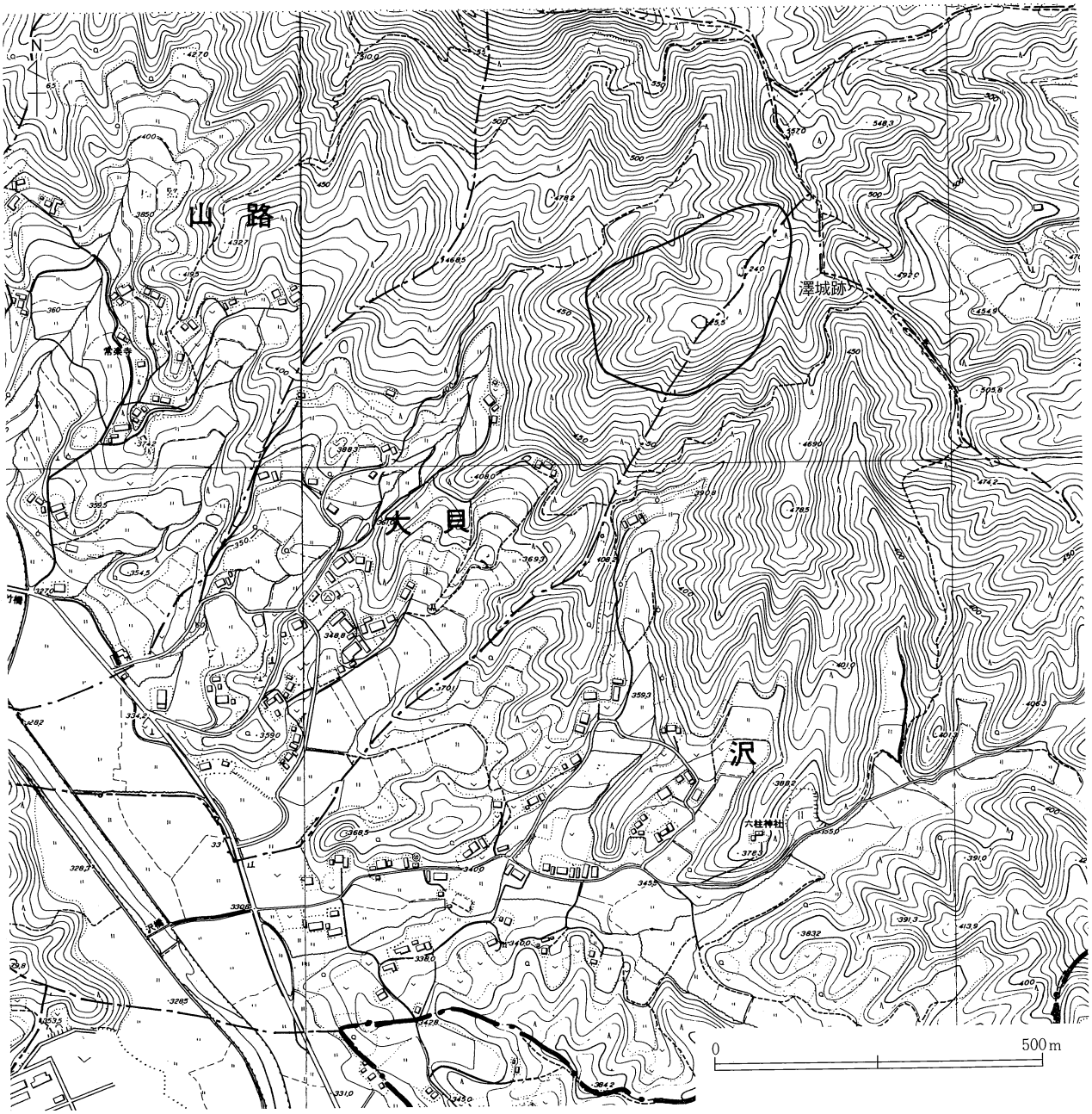



図10　澤城跡位置図

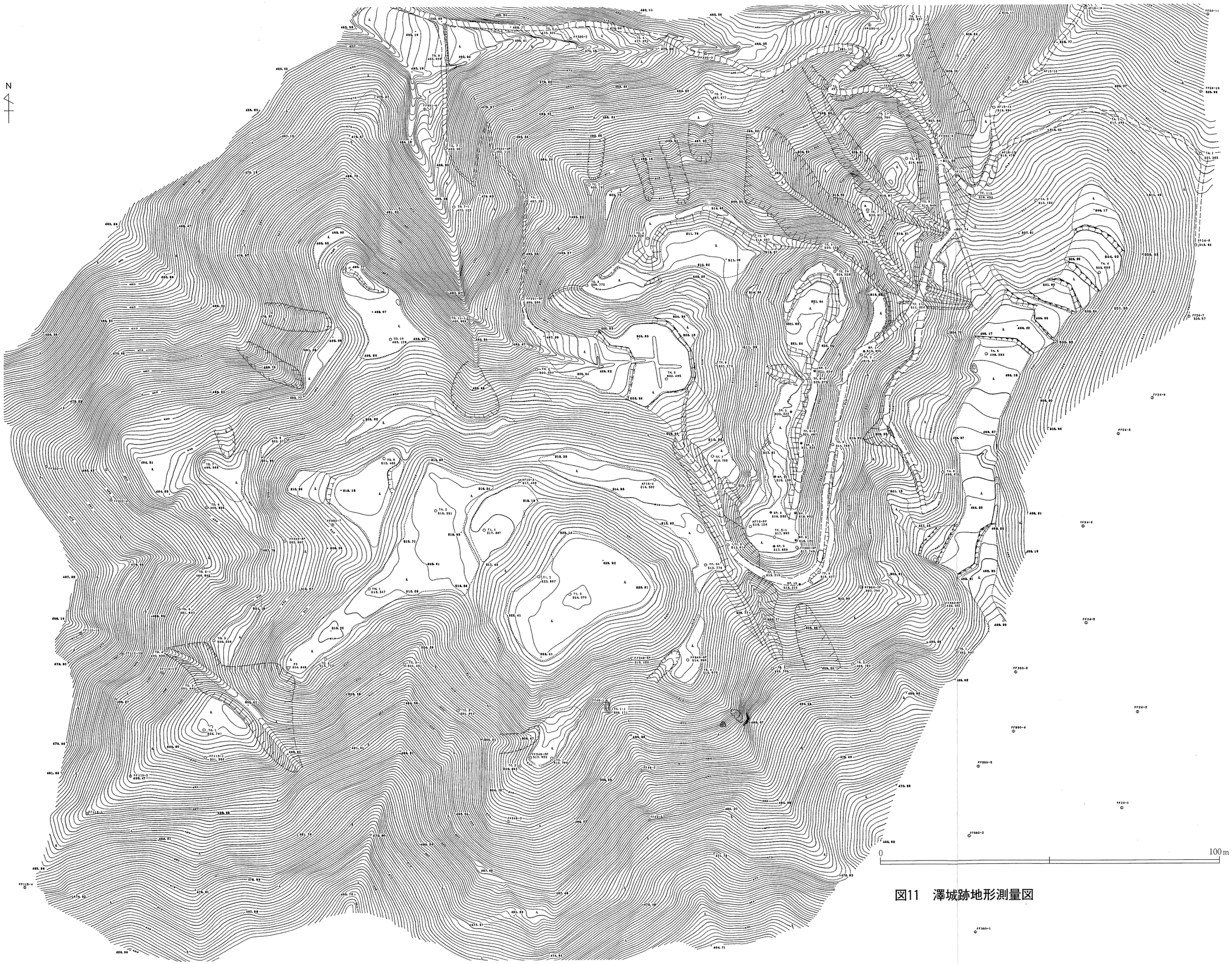



図11　澤城跡地形測量図

2006年度は、２次調査で確認した礎石の状況等を確認するため、その東側に調査区を設定し、３次調査とした。現地調査は、2007年（平成19年）３月19日～2007年（平成19年）３月30日まで実施し、下層遺構等の詳細な確認は次年度とした。

## 2　位置と環境

伊那佐山から南東にのびる標高約538ｍの山頂に造られた中世山城である。城山と呼ばれている山中には、平坦面・土塁・掘切りなどの遺構が良好な状態で残っている。城は、本丸に相当する主郭群（西郭群）、出丸に相当する副郭群（東郭群）で構成され、南斜面には小規模な郭と考えられる平坦面もある。この城の築造時期は明らかでないが、天正13年(1585)年頃に廃城となっている。永禄３年(1560)には、高山飛騨守図書が城主となり、幼少の高山右近もここで過ごし、右近は、この城内の教会で洗礼を受けている。北東には、米山城と呼ばれる郭群、南方の城下（沢・大貝）には居館や小規模な郭群が築かれ、広義の澤城の範囲に含めることができる（図10)。

澤城は、伊那佐山から南東にのびる尾根を切った二重堀切から大手口をおさえる郭群までの南北約700ｍ、東西約400ｍに及ぶ広大なもので、東西両端を堀切で遮断された東西約300ｍの郭群が澤城の主要部分となっている（図11・12)。

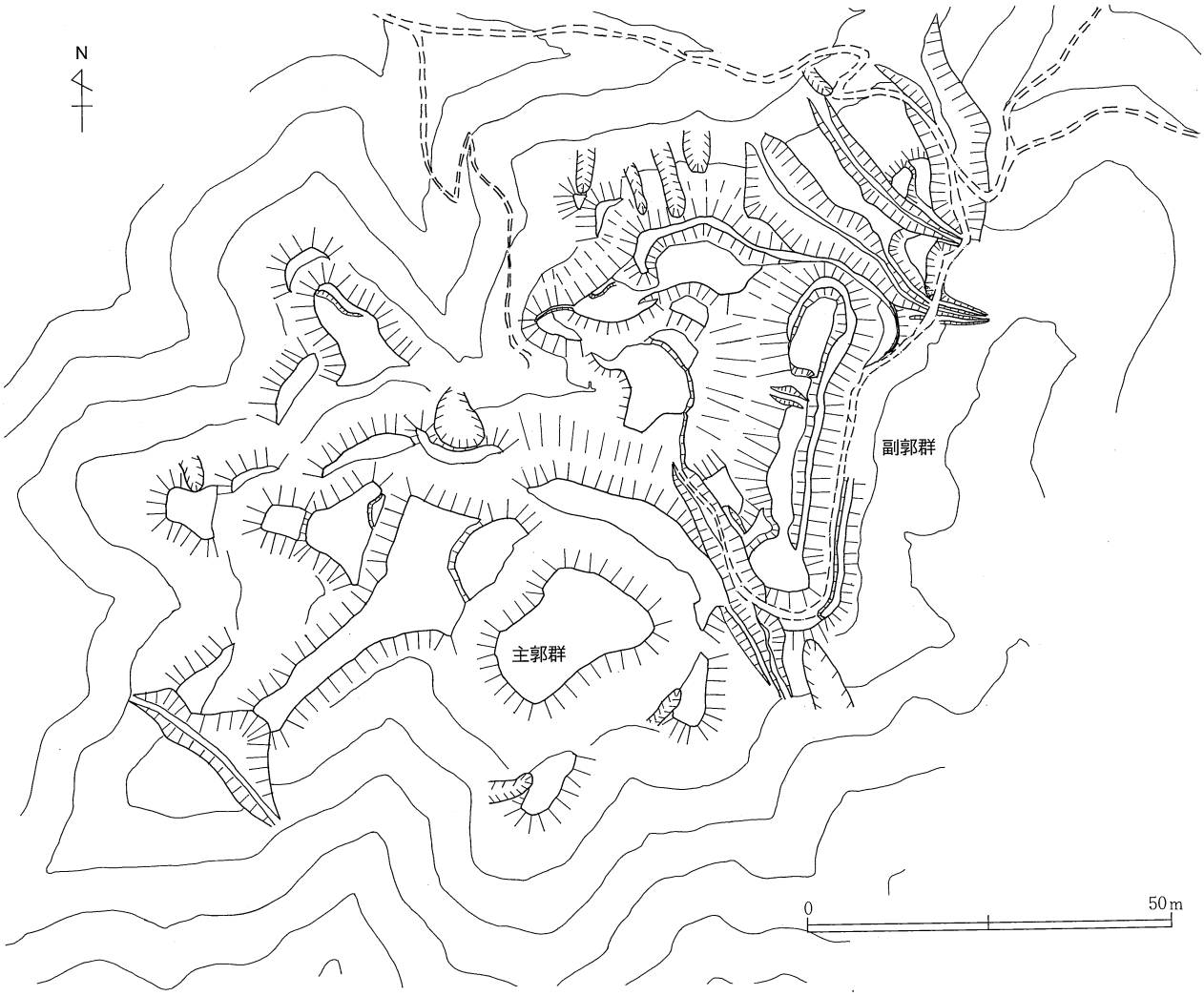



**図12　澤城跡縄張図**

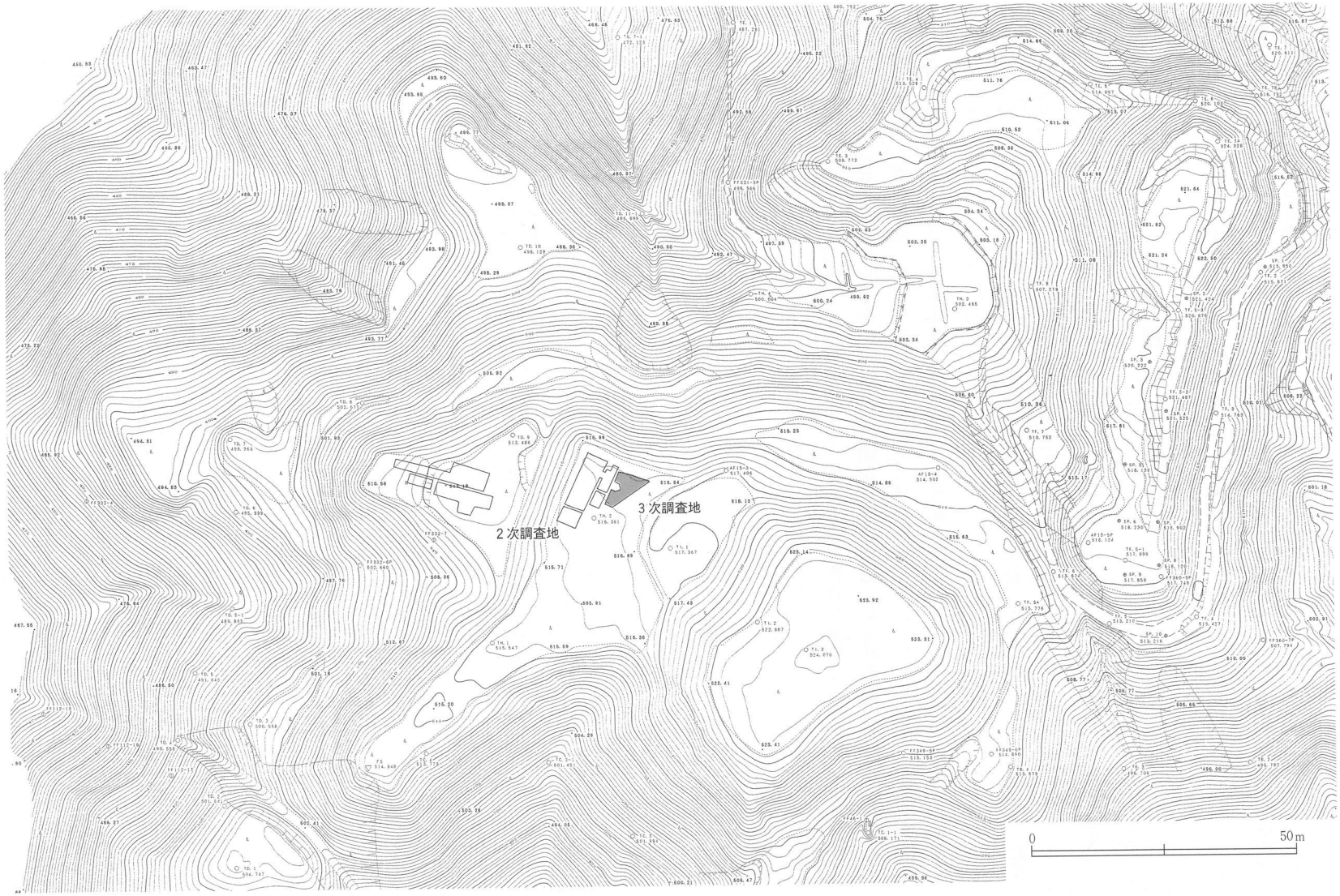



図13　澤城跡調査位置図

主要部分の東西には、深い堀切があり、東端は三重の掘切となっている。また、主要部分の中ほどにも堀切が認められ、これを境として東西に郭群をわけることができ、主郭（西郭）群は本丸、二ノ丸等、副郭（東郭）群は出丸、クラカケバ等と呼称されている郭がある。

主郭群は、最高所にある東西約40ｍ、南北約20～30ｍのやや不整な長方形を呈する主郭を中心に展開している。北西と北東には、細長い郭がめぐり、主郭と北西郭との斜面は緩傾斜となっている。主郭群は基本的には、土塁が築かれていないが、主郭から北へとのびる尾根先端に形成された郭の北端には、小規模な土塁が認められる。

副郭群の中心は、南北約90ｍ、東西約20ｍの細長い郭を中心にしており、西側以外の三方を土塁で囲み、東から南にかけて、通路状になった帯郭が廻る。細長い出丸の中程には、小規模な掘切が認められ、南郭と北郭とに分かれる。

## 3　遺跡の調査

(1)　調査区

主郭西方の一段低くなっている平坦面（北西郭）を今回の調査対象とした。なお、調査地は２次調査地の東隣である（図13）。

(2)　検出遺構

調査区内の北辺から長さ50㎝程度の礎石３石を検出している。これらは平坦面（北西郭）北辺に沿って直線的に並び、その延長は約３ｍを測る（図版４）。

なお、２次調査時に検出した礎石とも一直線にならび、これらの総延長は、約11ｍをはかる。

(3)　出土遺物

発掘調査・遺物整理途上ではあるが、土師器、瓦質土器、陶器、磁器、青磁、鉄釘、鉄滓等が出土している。細片が多いものの、16世紀第３四半期の範疇で捉えることができるものである。

## 4　ま　と　め

検出した礎石の具体的な様相は、まだ明らかにできないものの、これらは２次調査時の礎石を含めて地形に沿って、直線的に配置されていることが確認できた。出土遺物からその時期は、16世紀第３四半期頃のものと推定できる。詳細は、今後の調査に期するところが大きいが、この礎石建物は高山氏の造作によるものと推定できる。

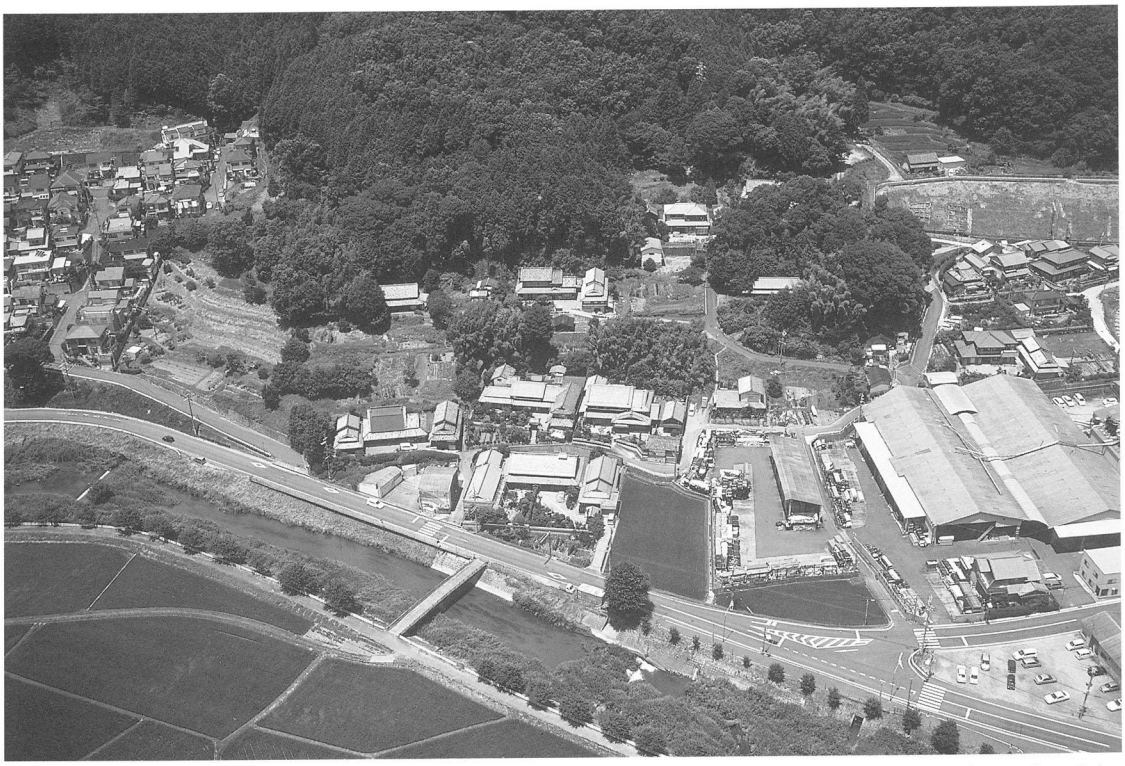
## 5　抄　　録

| | |
|---|---|
| 遺　跡　名 | 澤城跡　〈奈良県遺跡地図番号15－Ｄ－97〉 |
| 調　査　地 | 奈良県宇陀市榛原区大貝302番地 |
| 遺跡立地 | 標高約400ｍ～560ｍの尾根上、主要部分は標高約480ｍ～524ｍの尾根上 |
| 遺跡規模 | 南北約700ｍ、東西約400ｍ、主要部分は南北約250ｍ、東西約300ｍ |
| 種　　別 | 中世の城跡 |
| 調査主体 | 宇陀市教育委員会 |
| 調査担当者 | 宇陀市教育委員会　社会教育課　主任　柳澤一宏 |
| 調査原因 | 範囲確認調査（事業主体：宇陀市教育委員会） |
| 調査期間 | 2007年（平成19年）３月19日～2007年（平成19年）３月30日 |
| 測量面積 | 22㎡ |
| 検出遺構 | 礎石 |
| 検出遺物 | 土師器、瓦質土器、陶器、磁器、青磁、鉄釘、鉄滓　〈整理箱　１箱〉 |
| 資料等の保管 | 宇陀市教育委員会 |
| 調査後の措置 | 次年度へ発掘調査継続 |

**写真３　作業風景**

**写真４　作業風景**

# 図　　版



航空写真（南上空から）

調査地（北から）

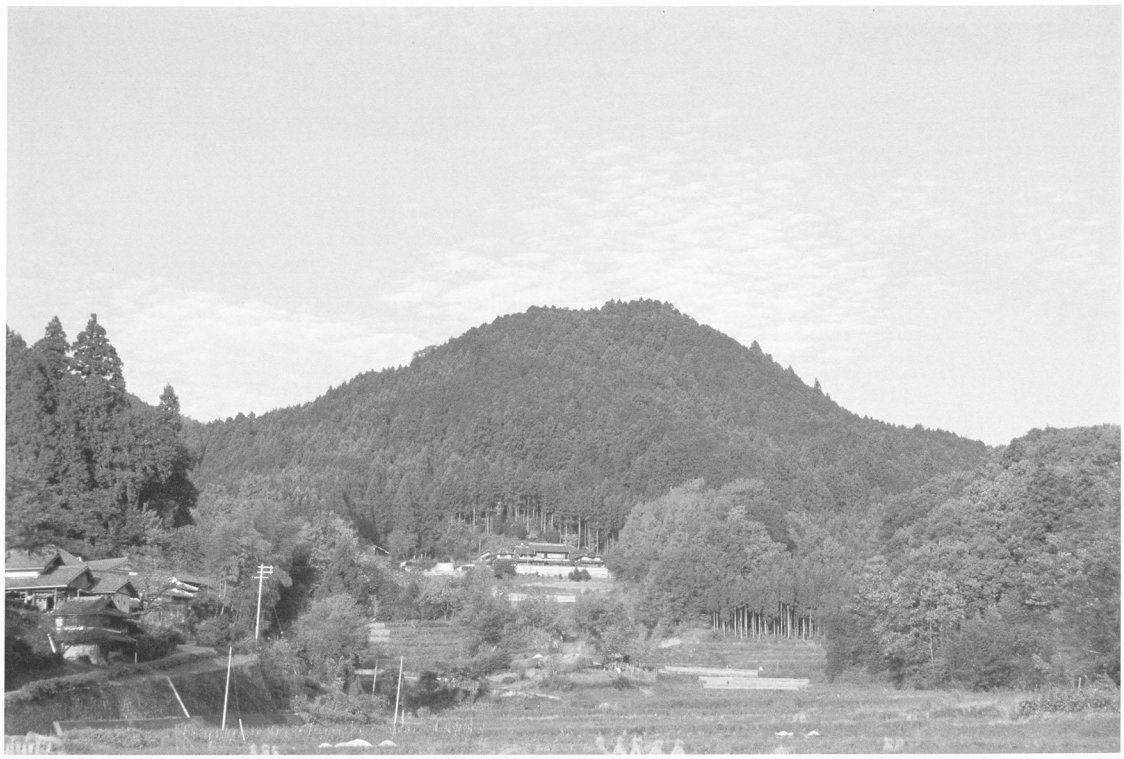
航空写真（南西上空から）

整地土＜第３層＞内遺物出土状況（西から）

整地土＜第３層＞内遺物出土状況（南西から）

整地土＜第３層＞内遺物出土状況（西から）

図版四　澤城跡



澤城跡遠景（南から）

礎石検出状況（西から）

# 報告書抄録

| | |
|---|---|
| ふりがな | うだしないいせきはっくつちょうさがいようほうこくしょ |
| 書名 | 宇陀市内遺跡発掘調査概要報告書　2006年度 |
| 副書名 | |
| 巻次 | |
| シリーズ名 | 宇陀市文化財調査概要 |
| シリーズ番号 | 2 |
| 編著者名 | 柳澤一宏 |
| 編集機関 | 宇陀市教育委員会 |
| 所在地 | 〒633-2221　奈良県宇陀市菟田野区松井486番地の1　TEL 0745-84-2473（直通） |
| 発行年月日 | 西暦　2008年3月31日 |

| ふりがな<br>所収遺跡名 | ふりがな<br>所在地 | コード<br>市町村 | コード<br>遺跡番号 | 北緯<br>世界測地系 | 東経<br>世界測地系 | 調査期間 | 調査面積（$m^2$） | 調査原因 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 中西遺跡<br>（1次調査） | 奈良県宇陀市榛原区<br>下井足1375-1、1375-2番地 | 29212-5 | | 34度<br>31分<br>34秒 | 135度<br>56分<br>49秒 | 2006/4/24<br>・<br>2006/5/19 | 6 | 個人住宅<br>建設工事 |
| 下城・馬場遺跡<br>（11次調査） | 奈良県宇陀市榛原区<br>沢1295番地 | 29212-5 | | 34度<br>29分<br>33秒 | 135度<br>58分<br>07秒 | 2006/7/10<br>～<br>2007/3/30 | 62 | 個人農地<br>改良工事 |
| 澤城跡<br>（3次調査） | 奈良県宇陀市榛原区<br>大貝302番地 | 29212-5 | | 34度<br>29分<br>59秒 | 135度<br>58分<br>14秒 | 2007/3/19<br>～<br>2007/3/30 | 22 | 範囲確認<br>調査 |

| 所収遺跡名 | 種別 | 主な時代 | 主な遺構 | 主な遺物 | 特記事項 |
|---|---|---|---|---|---|
| 中西遺跡<br>（1次調査） | 遺物散布地 | 縄文～中世 | なし | なし | |
| 下城・馬場遺跡<br>（11次調査） | 遺物散布地<br>城館跡 | 縄文～<br>古墳、中世<br>中世 | 整地土 | 土師器、瓦器、瓦質土器、陶器、磁器、鉄刀子、鉄釘、鉄滓他 | |
| 澤城跡<br>（3次調査） | 城跡 | 中世 | 礎石 | 土師器、瓦質土器、陶器、磁器、青磁、鉄釘、鉄滓他 | |

宇陀市内遺跡発掘調査概要報告書　2006年度
宇陀市文化財調査概要　2

2008年 3月31日　発行

編集
発行　宇陀市教育委員会
奈良県宇陀市菟田野区松井486番地の1

印刷　株式会社　アイプリコム
奈良県磯城郡田原本町千代360－1